



駅ナカ アート プロジェクト

事業概要

「学・産・官」が連携し、大学生のアート作品で地下鉄駅構内を活性化する。

実施目的

○人口140万人の大都市であり、年間5千万人の観光客が訪れる国際観光都市である京都。

その重要な都市装置である「京都市営地下鉄」の「駅」のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりに寄与すること。

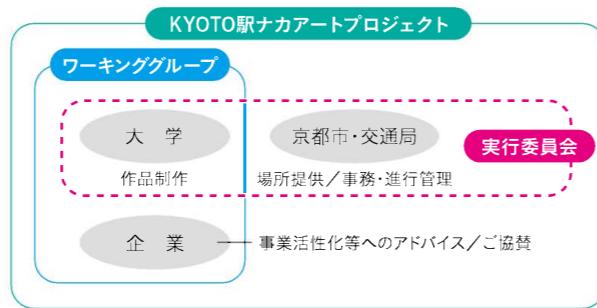
○「大学のまち京都」ならではの取組として、芸術系大学の学生が中心となったアート作品の展開により、世界に誇る「文化芸術都市京都」確立への一助となること。

○本事業を通じた「学・産・官」三者の連携・交流により、学生に対し、未来の京都を支える人材への成長の機会を提供すること。

実施駅及び参加大学

【大学名】	烏丸線	国際会館駅
京都精華大学	烏丸線	国際会館駅
京都工芸繊維大学	烏丸線	松ヶ崎駅
京都府立大学	烏丸線	北大路駅
大谷大学	烏丸線	北大路駅
京都女子大学	烏丸線	五条駅
京都教育大学	東西線	六地蔵駅
京都橘大学	東西線	柳辻駅
京都芸術大学	東西線	東山駅
京都美術工芸大学	東西線	三条京阪駅
京都市立芸術大学	東西線	二条城前駅
嵯峨美術大学	東西線	二条駅
嵯峨美術短期大学	東西線	太秦天神川駅

事業体制のイメージ



作品のテーマ

「アートのある駅」

駅は、通勤・通学など日常利用する人、観光や出張などで京都を訪れ利用する人、老若男女、国籍も含め多様な人が利用している「公共空間」。とにかく「暗い」「殺風景」「寂しい」というイメージを持たれがちな地下鉄の駅を、アートやデザインの力で明るく、心地よくするにはどうすればよいだろう。駅を心地よくするという原点に立ち返り、デザインアート、インスタレーションに挑戦しました。

実行委員会メンバー（令和元年11月28日設立当初）

【大学名・局名 五十音順：敬称略】

大谷大学 教授
京都教育大学 教授
京都工芸繊維大学 名誉教授
京都工芸繊維大学 准教授
京都女子大学 准教授
京都市立芸術大学 教授
京都精華大学 准教授
京都芸術大学 教授
京都橘大学 准教授
京都美術工芸大学 教授
京都府立大学 准教授
嵯峨美術大学 教授
嵯峨美術短期大学 講師
京都市交通局 高速鉄道部長
京都市文化市民局 文化芸術都市推進室
文化芸術企画課 事業推進担当課長

松川 節
丹下裕史
山本建太郎
西村雅信
江口淑子
藤本英子
米本昌史
都築 潤
河野良平
中井川正道
河西立雄
江村耕市
西谷福朗
土田 稔
川瀬清一郎

ワーキンググループメンバー

【大学名・企業名 五十音順：敬称略】

大谷大学 教授
大谷大学 講師
京都教育大学 教授
京都工芸繊維大学 名誉教授
京都工芸繊維大学 准教授
京都女子大学 准教授
京都精華大学 教授
京都市立芸術大学 教授
京都芸術大学 教授
京都橘大学 准教授
京都美術工芸大学 教授
京都府立大学 准教授
嵯峨美術大学 教授
嵯峨美術短期大学 講師
京都信用金庫
株式会社サンエムカラー
株式会社島津製作所
株式会社美十
村田機械株式会社
ボノス株式会社
株式会社リーフ・パブリケーションズ

KYOTO駅ナカアートプロジェクト2020 作品構想意見交換会

日 時：令和2年2月10日(月)13時～17時15分

場 所：株式会社島津製作所本社会議室

参加者：参加12大学・協賛企業

「KYOTO駅ナカアートプロジェクト2020」の参加大学12校がこの日、一堂に会しました。ここでは、この事業にご協力いただいている企業の皆様の前で各大学の学生たちが、各自の作品について想い想いの構想を語り、お互いに意見や率直な感想を述べあうことで交流を行いました。



KYOTO駅ナカアートプロジェクト2020 感謝状贈呈式

日 時：令和2年10月19日(月)～令和2年10月27日(火)

場 所：各参加大学

京都の「大学」と「企業」と「行政」が一体となって取り組む様子をより多くの方々にご覧いただけるよう、例年は広場でのオープン形式で「感謝状贈呈式」と「ジョイントミーティング」を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各参加大学にて参加学生、先生方のみでの規模を縮小した「感謝状贈呈式」を行いました。作品制作に当たった各大学の学生達にそれぞれ感謝状を手渡し、参加学生と先生方からご感想をいただきました。



制作風景

国際会館駅：京都精華大学

[ライフクリエイションコース]



下絵を元に針を打ち込んでいきます。



料理にあった色の糸を選定し、針に糸を重ね掛けしていきます。



駅構内の設置では天井に橋渡して糸を伸ばし、さらにその先の対面になる壁に料理の色で彩りを加えました。

[テキスタイルコース]



穴を開けたアクリル板にネオンチューブを通して、ネオンを目立たせるバックの色は何色か思案している。

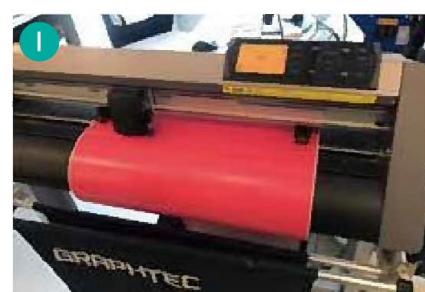


ある程度写真を貼り付け、全体のフォルムの確認作業。



国際会館駅構内での設置作業風景。

松ヶ崎駅：京都工芸繊維大学



カッティングシートのモチーフをプロッターで切り抜きます。



施行に入る前にガラス面の掃除をします。こうすることで、作品がより綺麗に見えます。



ガラス面を霧吹きで十分に濡らします。



モチーフのカッティングシートを貼ります。



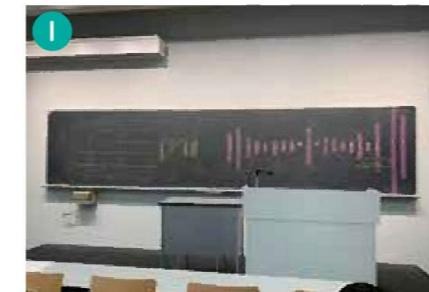
へらなどで気泡を取ります。



同じ方法でさらに装飾用粘着シートを貼ります。

今年の作品テーマ「アートのあふれる駅」について、学生たちが各々の感性に基づき相談、検討を重ね、一つひとつの作品を創り上げていきました。

北大路駅：京都府立大学



作品案についての議論から始まりました。



設置する順に合わせて印刷していきます。



全て手作業でカットしました。



設置する前に壁面の掃除を行いました。



実際の強度を実験している様子です。



タイルを目安にして設置しました。

北大路駅：大谷大学



3Dプリンターで魚の形を出力。一つ当たり出来上がるのに1、2時間ほど待ちます。



そして魚を大漁に(笑)



出来上がった魚を用紙上に並べ、スプレーなどで着色していきます。



完成した作品を乾かした後、コルクボードに貼り付けてマスキングテープ等で回りを飾ります。



展示個所を清掃した後、制作した作品を壁に展示。



壁一面に大谷大学の魚たちが泳ぎだしました('ω'),"

制作風景

五条駅：京都女子大学



五条駅の現地調査。



水彩画で素材を作成中。



拡大印刷した素材をハサミでカット。



細かいところを修正。



カメラの映像設定を調節中。



おつかれさまの記念撮影。

柳沢駅：京都橘大学



スチレンボードに画像を投影し、作品の下書きを始める。



下書きした輪郭に合わせ、画像を見ながらマスキングテープを貼る。



様々な種類のマスキングテープを使い、工夫しながら貼っていく。



途中で全体を確認し、隣り合う色や形を調整する。



レジンを調合し、白地の背景部分には金色のラメを混ぜる。

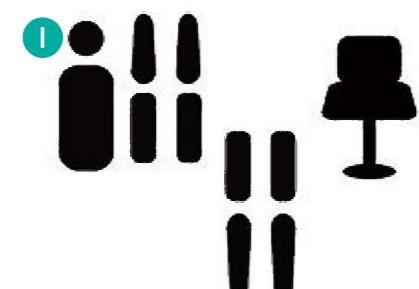


マスキングテープの上からレジンを塗布していく。

六地蔵駅：京都教育大学



カットした金属板の配置を調整します。



体や小物のパーツを作ります。



土の入れ物を作っています。



金属板を磨いています。



パーツを配置し、テキストを打ち込みます。色も変更します。



六地蔵駅のタイルの先にある土を取ってきて乾燥させています。

東山駅：京都芸術大学



施工モチーフが「銭湯」に決まり、実際に東山湯さんに取材に行きました。銭湯の内装を撮影させていただき、作品に使用させていただきます。



大型出力したイラストレーションの一部を切り出している写真です。誤って手を滑らさないよう、注意をそらさず作業を進めます。



キャプションとともに設置する暖簾に、ロゴマークを刷っていきます。版画の一種であるシルクスクリーンという手法を用いた作業風景です。



学校での作業も一段落し、駅構内での作業へと移行していきます。施工しやすくするため、作品を綺麗に見せるため、掃除を行います。



メインとなる壁に、イラストレーションを印刷したシールを貼っていきます。シワを出さないように慎重に確認しながら進めていきます。



全体の施工をほとんど終え、最後にアヒルを設置します。全体のバランスを見ながら、見ていて気持ちのいいレイアウトを意識しています。

制作風景

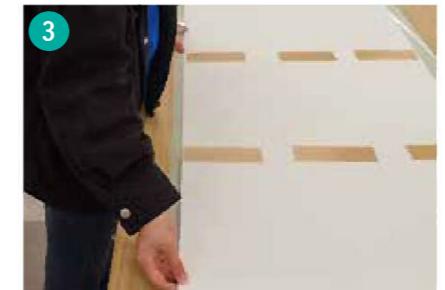
三条京阪駅：京都美術工芸大学



印刷するデータを作成します。



大型プリンターで印刷します。



長方形のパネルが帯状になるように裏から貼り付けます。



一枚一枚ボードに貼り付けていきます。

90枚近くのパネルを全員で貼っていきます。

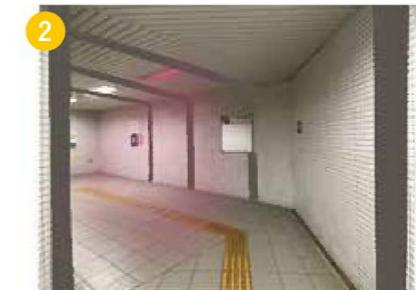


高い所もぞれないと丁寧に貼っていきました。

二条駅：嵯峨美術大学



模型を作ってプランニングを行う。



プラン修正のため画像上でシミュレーション。



壁面を清掃して、ミラーシートを貼る。

二条城前駅：京都市立芸術大学



届いた素材サンプルを見ながら話し合いをしています。

素材のテストをしている様子です。



約50枚! 元々壁にあった展示ケースをカバーしていきます。



反対側の壁にも素材を貼っていきます。

バランスよく見えるように考えながら進めていきます。



最後にメインビジュアルを貼って完成です。

太秦天神川駅：嵯峨美術短期大学



コンセプトの文章は一字一文字気持ちを込めて墨と筆で書いています。



大階段の千鳥はひとつひとつ丁寧に手作りで制作しています。50羽以上制作した千鳥は同じものはありません。



入稿したイラストが刷り上がってきたので、搬入できる様に調整中です。



柱など設置が難しい作品も全てチームで協力し合って取り付けていきます。



全体のバランスを見ながら作品を設置していきます。



柱など設置が難しい作品も全てチームで協力し合って取り付けていきます。

作品一覧

[実施駅及び参加大学]



[PR映像制作]

駅ナカアートプロジェクトのPR映像を大谷大学が制作しました。

PV（メイキングムービー）

制作に打ち込む学生達の様子を中心に、環境の違う様々な大学の学生達の「アート」という一つのキーワードの元での繋がりを、一冊のスケッチブックを通して表現しました。



▲大谷大学のYouTubeページにつながります。

作品紹介ムービー

2020年のKYOTO駅ナカアートプロジェクト動画はスケッチブッククリレー形式で各大学の活動を紹介しています。本作品は、スケッチブックをめくりながら各駅の展示作品とアートバスのようすを見ることができますように制作しました。



▲大谷大学のYouTubeページにつながります。

[展示期間] 令和2年3月24日～令和2年10月31日

[広報物制作]

京都工芸繊維大学の学生が、担当の西村雅信先生のご指導のもと、ポスター、パンフレット表紙、紙管等の広報物デザインを一手に引き受けってくれました。

キービジュアル・ポスター・フライヤー：中川 茜
サイネージ：山崎ひまり
フラッグ：松下千聖
紙管：中川 茜、折原菜月、土倉那菜、
船木智好、守島 桜

BI ポスター



B3 ポスター



ポスターデザイン

ポスターのデザインは、「駅から溢れるオーラ」をイメージ。学生が作り出すアート作品からはオーラが溢れ出し、そのオーラが地下鉄の駅を照らし出します。そして、コロナ禍で社会に不安が募る中でも学生は、静かにメラメラと、熱い情熱を燃やしているという様が表現されています。



紙管・フラッグ・キャッシュボード展示風景

[ライフクリエイションコース]

作品名 食の色見本

制作者 | 仲矢昇平・則藤亜美・グエンチャム・谷 喜太郎・西村壮司・イソヒヨン・田畠 楓・八塚菜那・橋 悠花・山岡夏希
指導教員 | 米本昌史



料理で色を感じることをテーマに料理を糸で表現することで料理を感じながら、その料理自体の持つ本来の色合いを感じることができます。料理から色だけを壁、天井へ伸ばすことで目線を誘導し色彩のアートを感じさせるようにしています。身近な料理であるからこそ料理も一つのアートであることを気づかせ、アートの領域を広げることにつながり、自然とアートに触れる機会を増やせると考えました。このアートは駅で終わることなく食事をするときに料理もアートの一つであることを感じてもらえるよう、この作品を通じて、料理の彩りが持つ力を感じて頂ければ幸いです。

[テキスタイルコース]

作品名 暮らしの中の身近なアート=食

制作者 | 亀田ひなた・佐橋 遼・豊倉圭一・松本ことみ・村岡拓巳・池田朱里・今井木野美
指導教員 | 中川裕孝



私たちの生活中でなくてはならない「食べる」という行為。それはただ食すだけではなく、見て楽しむ、という要素も含んでいます。私たちは「食」をテーマに何かアート作品が作れないかと考え、そして、間接的にでも参加型になるような作品にしたいという思いから世界共通語のような「emoji」を使用し、そこから連想される食べ物の写真をSNSで投稿してもらい、ネオン管で作った絵文字と共に展示しました。国や人種を超えて理解ができる「emoji」、共感を呼ぶ沢山の投稿写真、コロナ禍にある人々が今晚の献立を考えたり、ときには外食に行きたいとポジティブな気持ちを抱いてくれたら嬉しいです。

松ヶ崎駅

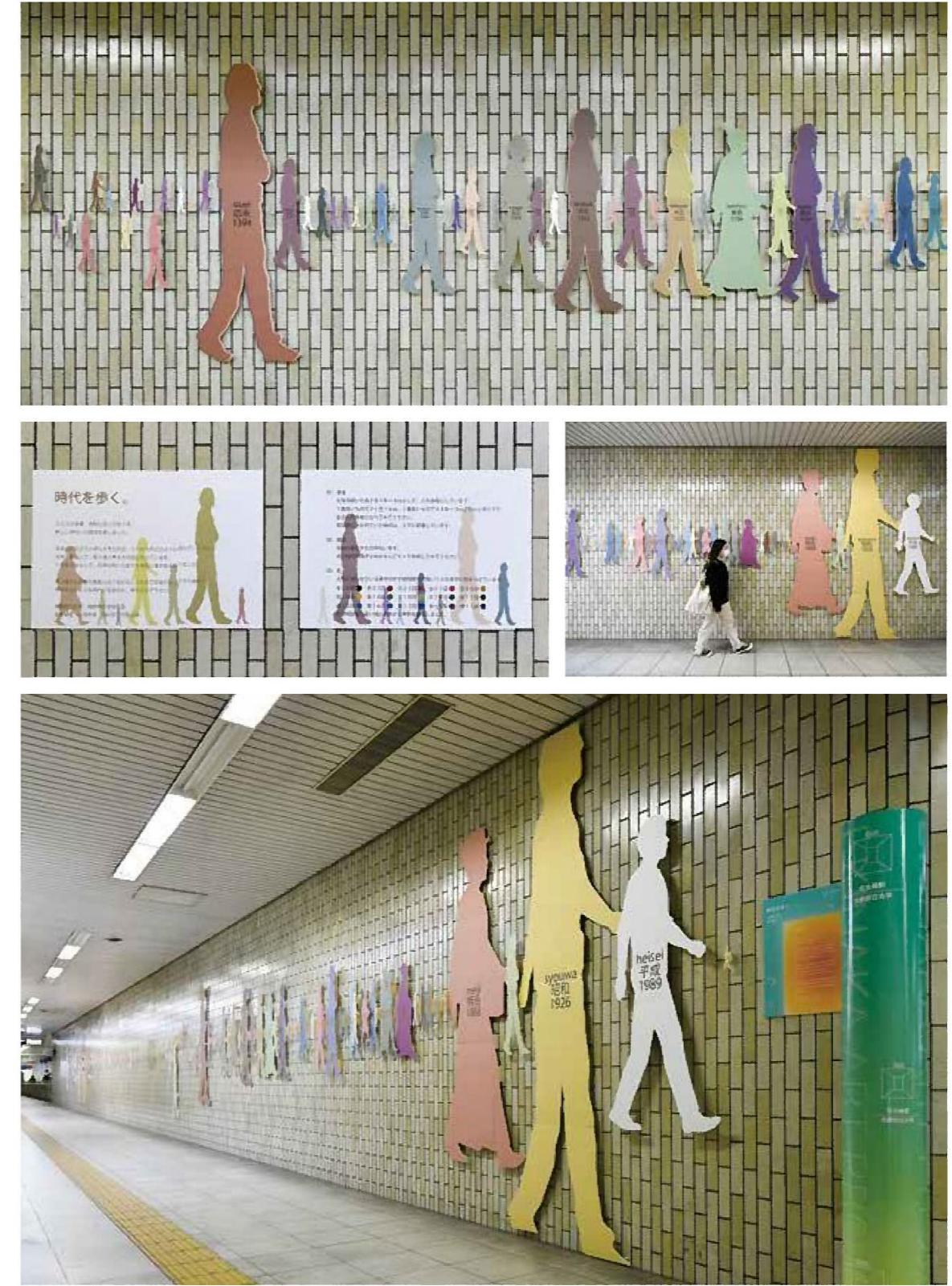
京都工芸繊維大学



初めてここに訪れる人にも、住み慣れた地である人にも京都の松ヶ崎という場所での日常を感じてもらいたい。その想いのもと、ガラスを「琥珀糖」に見立て、京都の美しい風景が感じられる作品に仕上げました。寒天と砂糖というシンプルな材料で作られる「琥珀糖」。それは食べる宝石と言われるほどキラキラと輝き、透き通った中には繊細な四季のモチーフが浮かび上がります。そんな松ヶ崎の透き通った水路を流れる草花のように見る人の視覚と心を満たします。

作品名 時代を歩く。

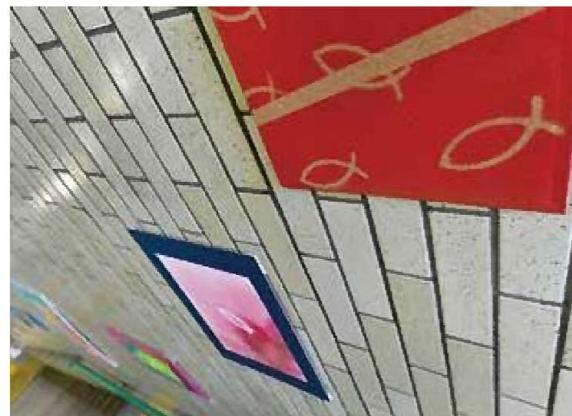
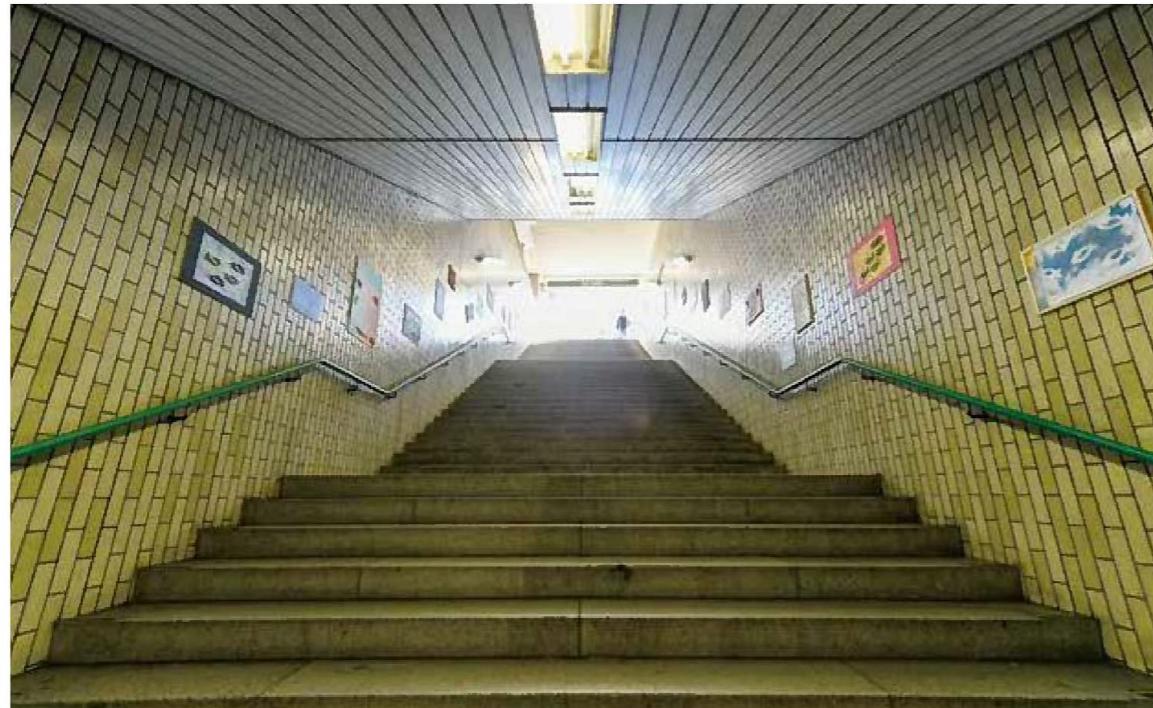
制作者 | 金芳綾音・小林奈央・西村京
指導教員 | 河西立雄



2020年春、令和になって約1年。新しい時代への期待感を表しました。日本はどのように歩んできたのか、これから先どのように歩んでいくのか。元号に着目して、振り返り考える作品となっています。1年を5cmとして、元号の続いた長さを身長に置き換え並べました。

北大路駅

大谷大学

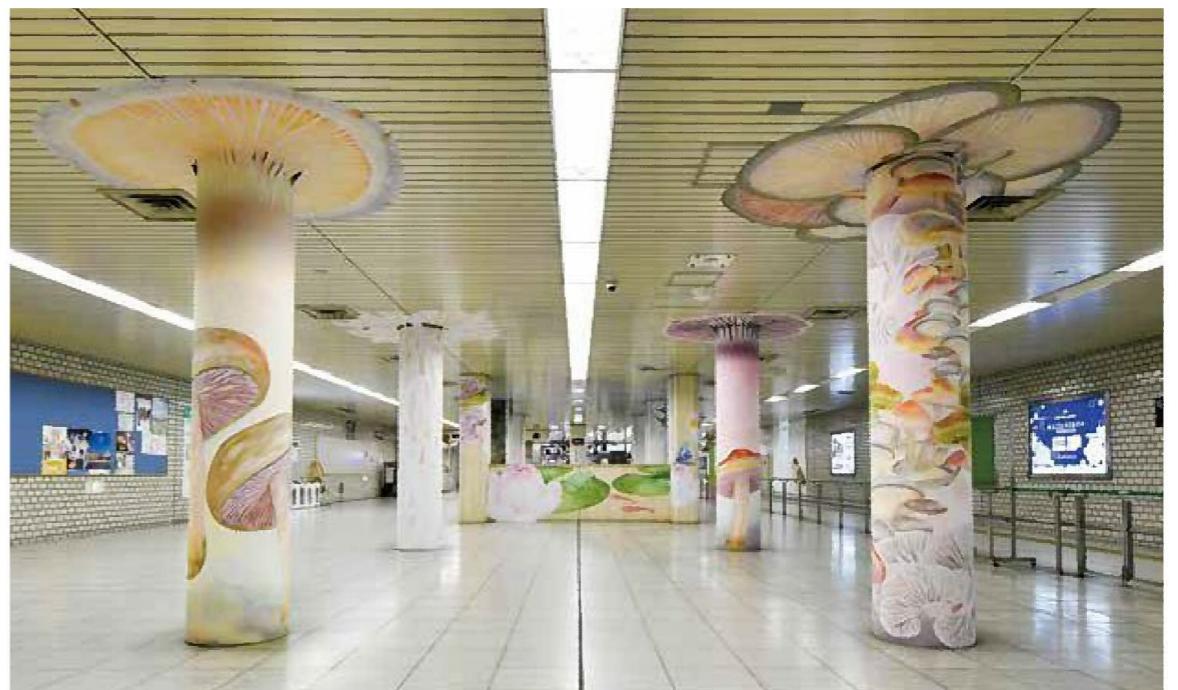


地下鉄を利用する「人」はそれぞれ向かう先は違えども行き先は変わらない様子を「魚」を用いて表現しました。私たち「大谷大学人文情報学科」として、どのようなアートが好ましいかを考えた結果、用いたのが「3Dプリンター」を利用することです。物語の「スイミー」を参考に表現してみました。小さな力でも集まれば大きな力となって大きな困難にでも立ち向かうことが出来る、そのような考えが作品を通じて伝わればと思います。

作品名 魚の集合体アート
制作者 | 金澤 悠・河本丸匠・小谷悠太・志々目拓哉・西川 碧・服部健太・原田涼平・七里 紗
指導教員 | 倉光延行・松川 節

作品名 小さな世界

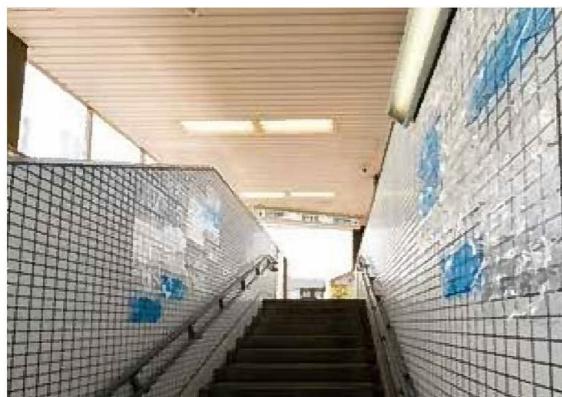
制作者 | 前田知香・藤岡沙羅・森 梓沙・大西妙依・光田友梨奈・松井美樹・西村初花・山根生成里・阪口佳穂・大石朋奈・田上和香奈・安達咲希
指導教員 | 江口淑子



普段の生活中で見える景色はいつも同じです。しかし視線の高さを変えるだけで新たな世界と巡り合え、刺激を受けることができます。地下鉄五条の駅ナカアートをきっかけに、見た人が日常の些細なことに気づけることを願っています。

六地蔵駅

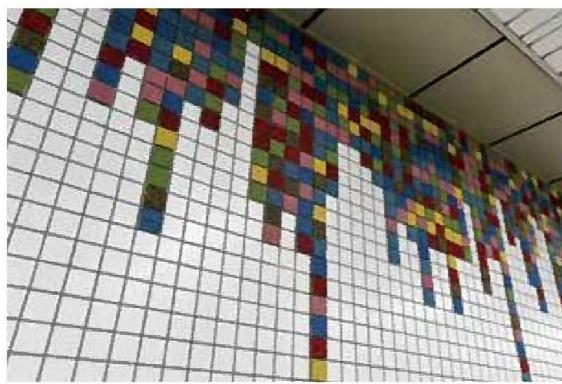
京都教育大学



毎日の通勤通学で社会が嫌になっても、この作品を見て子供の頃に遊んだ懐かしい記憶や地元の懐かしい風景を思い出してくれたらいいなと思います。

作品名 無機質空間に音色を

制作者 | 青木実佑
指導教員 | 丹下裕史



"ドレミファソラシ" の 7 つの音にそれぞれ色を当てはめ、壁に一曲の楽譜を作ります。天から音が 1 つひとつ落ちてくるような、また視覚的なものだけでなく、音色まで聴こえてきそうな、そんな作品にできたらいいと思っています。

作品名 土

制作者 | 春名風我
指導教員 | 丹下裕史



「駅」かつて土があり光のなかった場所。今は光、空気が流れ込み、人がよく行き交う場だからこそ私は土を展示します。山、川があり、集合団地のある六地蔵だからこそ、表面の奥へと眼を向けてほしいです。日々変わる土の表情をぜひご覧ください。

作品名 コントラスト

制作者 | 宮地信太郎
指導教員 | 丹下裕史



直線と曲線、陶器と金属、形と素材など、駅内空間をキャンバスに、金属板を使ってコントラストをテーマに制作しました。

作品名 インディビジュアル・ピクト

制作者 | 東 幸音
指導教員 | 丹下裕史



駅にいる人々をピクトグラム化しました。何気なく目にすることでも特徴があり、大衆の中の一人ではなく個であることを、色や動作で表現しました。見た人が「あるある」「いるいる」といった気持ちになって、そこからコミュニケーションが生まれれば良いな、と思います。

作品名 橘の木

制作者 | 石光花帆・後田悠佳・大崎雄大・尾崎景梧・亀田芽生・岸野航哉・北田梨帆・國友大成・小松峻輔・椎屋ののか・島 佳穂・高辻 和・武岡有里寿・出口千聖・中江 陸・西村珠優・長谷川航生・島中莉麻・林 成那・原田遼平・藤井将希・山口淳一郎・吉田未来
指導教員 | 河野良平



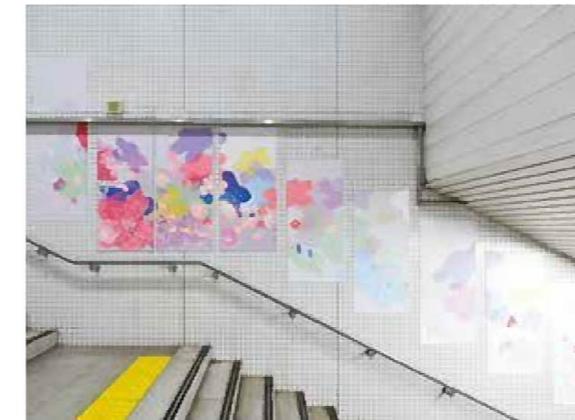
今年の駅ナカアートの全体テーマ「アートのあふれる駅」を聞いた時、何をモチーフにするか悩みました。なぜなら、ゼミのメンバーは 20 名以上いて、共通のテーマを見つけるのが難しかったからです。そのとき、私たちの大学の名前にある「橘」をテーマにしたらどうだろう、という意見が出ました。そこで今回の作品が「橘の木」になりました。制作は 6 つの班に分かれ、別々に作業を始めましたが、繋げてみると 1 枚の大きな作品になったので、とても面白いと思いました。この作品の図柄の部分はマスキングテープで出来ています。テープを小さくちぎって貼る作業は大変でしたが、近くで見るとバラバラなものが、遠くで見ると一つの絵になっているところがポイントです。隣り合うボードが接する部分は、図柄が連続して見えるように調整するのが難しかったです。



銭湯という空間は気取らない会話やお湯の流れ、暖簾のぬくもりなどから、たとえ人と直接的に触れ合うことがなくとも溢れ出すあたたかさを感じることのできる、安らぎを与える特別な空間です。“裸の付き合い”というように立場に関係なく、色々な人とコミュニケーションをとることができます。どこか殺風景で、無機質なイメージがある地下鉄が、より身近で、老若男女関係なく、利用者のみなさんが湯に浸るような暖かい馴染みのある、安心感のある空間になるよう心がけて制作しました。

作品名 きょうの春

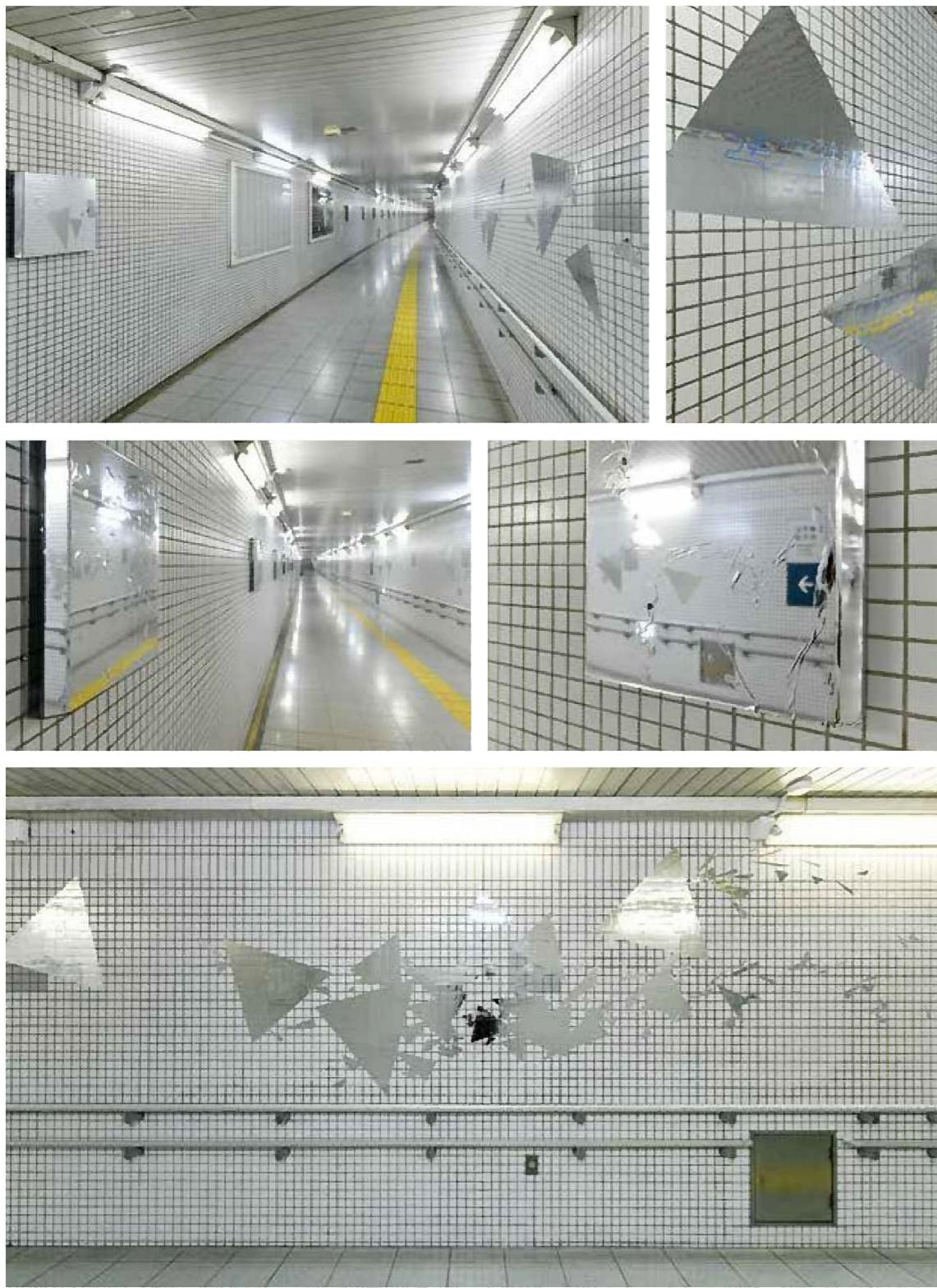
制作者 | 竹内佑美香・田村亮太朗・西村ジェニファー・村田樹彦
(協力者) 船橋佳奈美・織田晴菜・北島拓真・高橋さくら・野上玲・濱井春海・井上三菜・西村慎太郎
指導教員 | 中井川正道・岡達也



見る人に前向きな気持ちになって欲しいと考え、春の始まりを地下空間に広げました。約90枚のパネルに色とりどりの桜の花を咲かせ、春風が舞い込んだような明るい空間を表現しました。三条京阪駅を利用する人が、この作品を見て勇気や希望を抱いて春を迎えると嬉しく思います。

二条城前駅

京都市立芸術大学



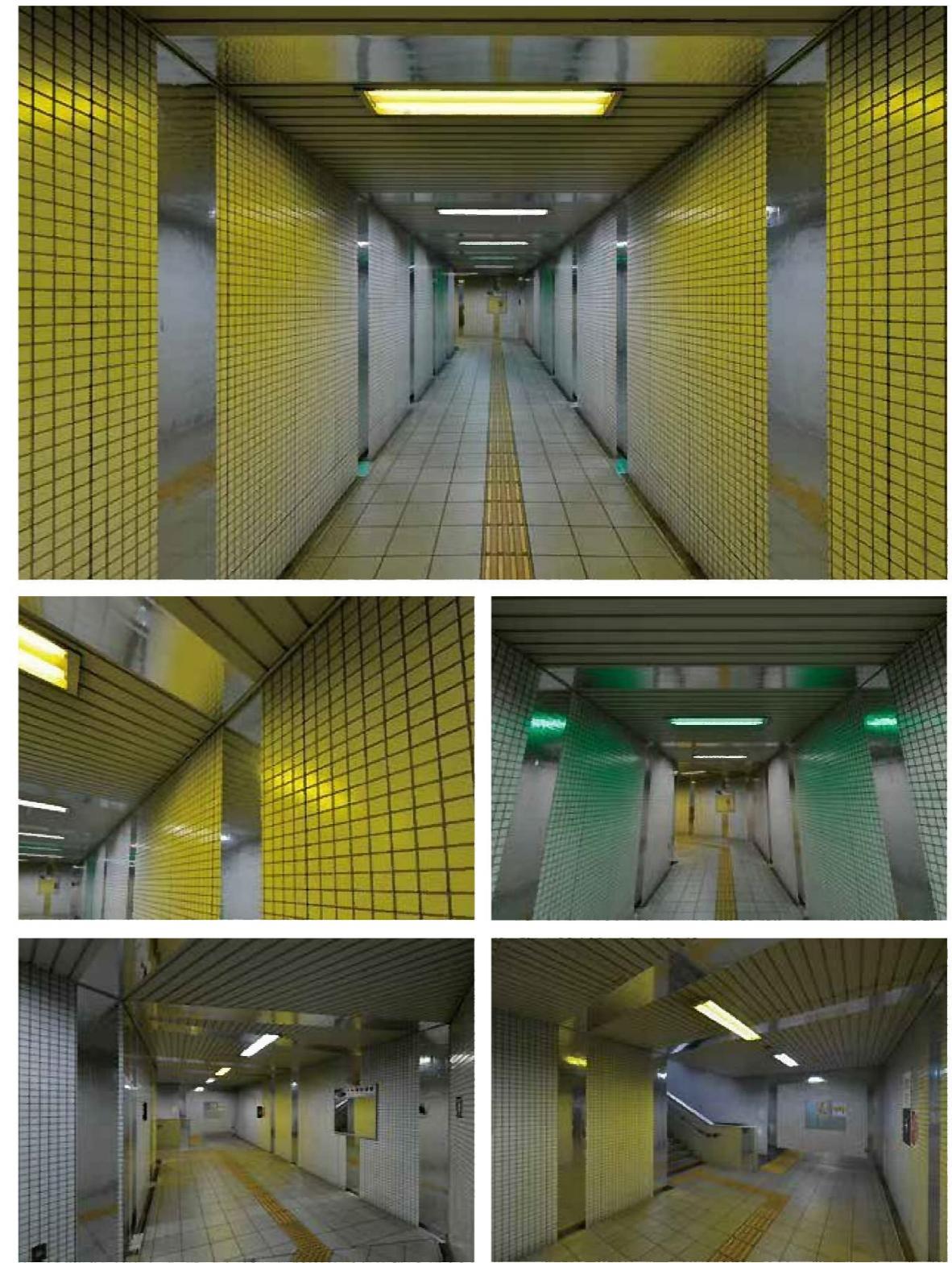
物を運ぶ運河、人を運ぶ鉄道。二条城駅近くに流れる堀川は、かつて運河でした。平安時代は物資の運搬や貴族の庭園への水を引くために、その後も農業用水や友禅染のために使われています。現在、地下鉄が人を運ぶ姿は古く運河と重なるものを感じます。この展示では、この長い廊下そのものを作りとし、鑑賞者がまるで堀川の中を通っているような水の清涼感やきらめきを感じられるようにと考えて制作しました。古くから大切なものを運び続けた運河のように、地下鉄は私たちを朝から夜まで運び続けます。

作品名 運河鉄道「ものを運ぶ運河 人を運ぶ鉄道」

制作者 | 島くるみ・辻田しづく・西尾綾香
指導教員 | 藤本英子・今村悦美

作品名 グルグルワウー

制作者 | 勝木有香・木本小百合・西山貴美・郭 茜菁・胡 弘艺・杜 若飛
指導教員 | 宇野和幸・江村耕市



テーマは「日常の小さな気づきから輝く発見」です。地下鉄通路は、タイルに覆われた壁と多くの直線に囲まれた空間であり、私達にとっては見慣れた場景です。この当たり前の日常を過ごす空間に変化を加えることで通路を利用する人たちに新鮮さをもたらすことができると考え、地下鉄駅に続く地下通路の一部をそのままインスタレーション作品にしました。壁面に貼られたミラーシートは、タイルが延々と続く壁の一部に歪みをもたらします。また、蛍光灯の数を増やし、色をつけました。蛍光灯の光がミラーシートに反射し、空間の一部を色で染めながら通路を明るく照らします。この空間を通りがちな人々が出会う小さな変化が、各自の新しい輝きの発見に繋がることを狙いました。

太秦天神川駅

嵯峨美術短期大学



京都市を東西南北に通る京都市営地下鉄は、通勤通学に利用されるだけでなく、日常のちょっとしたお出かけや、日本各地や海外から旅行に訪れた方々が京都の様々な観光スポットに行く際に、とても便利な交通の要です。そこで今回、駅構内を歩くことでチドリと一緒に旅をしているような気分になれる作品、「チドリと旅する、きょうの旅」をテーマに作品を制作しました。「今日の旅、いってらっしゃい。」というメッセージには、太秦天神川駅を観光や日常生活で利用されている方々へ、これから向かう目的地によりワクワク感を与え、そして暖かい気持ちになってほしいという願いを込めました。作品は嵯峨美術短期大学を中心を集めた12人の作家がそれぞれの「チドリと旅する、きょうの旅」を表現しています。是非お楽しみください。

作品名 仏さまの都めぐり

制作者 | 德重心平
指導教員 | 西谷福朗



この市バスのアート車両は「駅ナカアートプロジェクト」という京都市内12大学による共同アートプロジェクトに参加している嵯峨美術短期大学の学生が手掛けたものです。嵯峨美術短期大学は大覚寺を母体としており、この作品をご覧の皆さんに仏さまをより親しみやすく身近に感じてもらい、同時に一味違う京都の楽しみ方を紹介出来ればと思い制作しました。バスは仏さまが京都の様々な観光地を巡っているというコンセプトでデザインされており、車内広告は衣、食、住、季、観の5つの観点から京都の楽しみ方を紹介する内容になっています。どうぞバスへご乗車の間、ごゆるりとお楽しみください。

KYOTO 駅ナカアートプロジェクト 2020 にご協賛いただいた企業

は丁寧の美しさを実現する
京都地下鉄整備株式会社

ISHIDA

京都信用金庫

株式会社
サンエムカラー
<http://www.sunm.co.jp>

GK Kyoto
Design and Planning

SHIMADZU
Excellence in Science

おもいを、かたちに。
bバックス画材



muratec
村田機械株式会社

Leaf

これまでの軌跡

■平成 23 年度

国際会館駅・松ヶ崎駅・北大路駅の 3 駅で実施
(参加大学) 京都工芸繊維大学・京都精華大学・京都府立大学

■平成 24 年度

国際会館駅・松ヶ崎駅・北大路駅・くいな橋駅・石田駅・柳辻駅・東山駅
二条城前駅・太秦天神川駅の 9 駅で実施
(参加大学) 京都教育大学・京都工芸繊維大学・京都嵯峨芸術大学・京都女子大学・京都市立芸術大学・京都精華大学
京都造形芸術大学・京都橘大学・京都府立大学

■平成 25 年度

実行委員会を設立しての運営開始

■平成 26 年度

エコール・デ・ボザール（パリ国立高等美術学校）が参加し、京都嵯峨芸術大学と作品を共同制作
市バスアートを京都造形芸術大学が担当・実施
照明の設置（北大路駅・二条城前駅）
キーワードラリー及びアンケートの実施（オリジナルエコバッグのプレゼント）

■平成 27 年度

京都女子大学が市バス車体側面へのデザインアートを担当・実施

■平成 28 年度

鞍馬口駅で新たに実施 （参加大学）大谷大学
京都女子大学がポスター等の広報物をデザイン
大谷大学が各大学のマイキング映像を作成・発表

■平成 29 年度

2 校が新たに参加 （参加大学）京都美術工芸大学・嵯峨美術短期大学
新規参加や展示駅変更等により六地蔵駅・三条京阪駅・二条駅の 3 駅で新たに実施
京都精華大学が PR 紙管を製作し各駅の改札付近に設置

■平成 30 年度

京都美術工芸大学がポスター、PR 紙管等の広報物を担当
京都工芸繊維大学が市バス車体へのデザインアートを担当
大谷大学が制作した PR 映像を地下鉄駅（北大路駅、四条駅、京都駅）のデジタルサイネージにて放映

■令和元年度

京都工芸繊維大学がポスター、PR 紙管等の広報物を担当
嵯峨美術短期大学が市バス車体へのデザインアートを担当
大谷大学が制作した PR 映像を地下鉄（四条駅）のデジタルサイネージにて放映

後 援



協 力



【主 催】 KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会
(構成団体：参加 12 大学、京都市交通局、京都市文化市民局)

【「駅ナカアートプロジェクト」に関するお問い合わせ先】

京都市交通局高速鉄道部営業課
075-863-5218 (平日 8:45-17:30)

